ティンクルなごや通信しま

毎日の生活を大切に
「ティンクルのつどい」を開催しました
その人らしい生活を支える支援(支援者向け研修報告) 4

ティンクルなごや 指定管理者 社会福祉法人 むつみ福祉会

名古屋市北区平手町1丁目1番地の5 TEL: 052-916-0333

毎日の生活を大切に



院長 山下 伸子

新しい年を迎えました。2020年の年明けから新型 コロナウイルスの感染拡大が始まって以降、4年が経 とうとしています。

昨年5月、新型コロナウイルス感染症は5類感染症 に移行し、世の中の様々な活動が以前の状態に戻り、 中止になっていたことが再開されていきました。

ティンクルなごやでも、利用者様にもドライブで外 出していただくなど、少しずつ可能な取り組みを再開 しました。10月には、これまでのビニール越しの面会 を直接面会に変更し、時間の制限はありますが、中庭 やウエルネスガーデンの散歩もされ、利用者様とご家 族様が一緒に過ごしていただけるようになりました。 社会見学や学習発表会などの学校行事へも、ご家族様 と参加していただいています。定期的な訪問理髪も再 開され、プロの手によるさっぱりした髪型が日常に 戻ってきました。

11月にはご家族様をお招きして、「ティンクルのつ どい」を行いました。以前、ウエルネスガーデンで開 催していた「ティンクルまつり」に比べると、規模も 小さく、入れ替え制の大変限られた時間ではありまし たが、各病棟のデイルームにも訪れていただき、施設 の中に活気が戻った一日でした。

ご面会時に利用者様を抱きしめられたり、お膝の上 に抱いて過ごされたりするお姿や、久しぶりに会われ たご家族様同士のお話が弾むご様子に、3年余の長い 年月の重さを思い知らされました。一日も早い、制限 のない自由な面会や外出の再開を誰もが望みますが、 まだ終息したわけではありません。社会的な活動が 次々に戻っていく中で、慎重な感染対策を継続させて いただけるのも、多くのご家族様のご理解とご協力が あってのことと、感謝しております。

ティンクルなごやは、4月には開設10年目を迎えま す。感染対策下の施設運営が長期化する中で、施設に とってあるべき「日常」とは何か、職員達とともに考 えていかなければいけないと思っています。利用者様 には、安定した体調に加えて、優しさや温もりを感じ たり、感動を味わったりする、心の栄養もなくてはな りません。在宅で暮らしていらっしゃる皆様に、安心 して短期入所をご利用いただけるようにすることも、 引き続き重要な課題であると認識しております。

利用者様を中心に、様々な人が関わりあい、支えあっ て、毎日の生活が豊かなものとなるよう、歩み続けた いと思います。







「ティンクルのつどい」を開催しました

2023年11月11日(土)に長期入所中の利用者様のご家族をお招きして、4年ぶりの行事を開催しました。 ご参加、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



3つのファッションショー

この日のメインは各フロアでのファッションショーでした。2階は「私たちのハロウィンinシリウス&スピカ」、3階東は「ジュリアナティンクル☆2023」、3階西は「私がデザインした服」というテーマで行いました。準備から当日の様子をご紹介します。











素敵なTシャツをお披露目しました♪

3階西フロアではティンクルのつどいの準備としてファッションショーで披露する Tシャツの色染めを行いました。利用者さんとスタッフで染料の色を決め、一緒に染め上げ、世界で1枚しかないTシャツに仕上げました。本番と同じ場所、同じ順番で 事前にリハーサルを行い、利用者さんもスタッフも本番への期待を高めました。

当日は多くのご家族にお集まりいただき、利用者さんは緊張した表情、照れたような表情、得意気な表情、といった様々な表情を見せてくださいました。ご家族から「素敵なTシャツだね」「よく似合っているよ」とお声をかけていただき、利用者さんは嬉しそうな様子で応えられていました。ファッションショーは大成功で幕を閉じました。

浅井 香帆(3階西 生活支援員)

ランウェイで輝きました・

当日朝の着替えの時間から「今日は頑張りましょうね」とスタッフに声をかけられて、利用者さんはどこかそわそわした表情をされていました。3階東フロアは「ジュリアナティンクル☆2023」をテーマに、軽快な音楽と共に1人ずつ名前を呼ばれてランウェイに登場!

この日のために、ご家族にご用意していただいた洋服と光るアクセサリーを身につけて、ちょっぴり緊張した表情をしながら車椅子でぐるっと回ってポーズを取り、スタッフと一緒にランウェイを楽しみました。

ご家族には手を振っていただいたり、ペンライトで一緒に盛り上げていただきました。利用者さんがそばを通ると「いい笑顔ね」「素敵だね」とお声をかけていただき、スタッフもとても温かい気持ちになりました。

20分程の短い時間でしたが、利用者の皆さん、ご家族、スタッフが一緒になって楽しむ時間が久しぶりに戻ってきたのを感じることができ、とても嬉しかったです。 内山 友里(3階東 生活支援員)









ランタンに願いを灯して

今年のティンクルのつどいでは、それぞれのユニットの名前になっている星がデザインされたランタンを制作しました。海外のお祭りでは、ランタンは明るい未来や幸福が訪れるようにと願ったり、邪気を払う縁起物として飾る風習があるそうです。そこで、「ティンクルのつどいが無事に開催され、この先も大きな催し物ができるように」という願いや、「参加する人たちがこれからも変わらず笑顔で健やかに過ごせるように」という願いを込めて、各フロアで制作することになりました。

ランタンはまず大きな風船を膨らませて白い紙を貼り付け丸い土台を作ります。その後、模様を作るために色のついた薄い花紙を貼ることはかなり難しい作業でした。紙が破れてしまったときには「まだたくさんあるので大丈夫ですよ」とスタッフと顔を見合わせ励

ましあったり、貼り付けようとした場所から狙いが外れてしまっても「むしろ個性的でいいかも」と拍手が起きたりと、準備期間中にも自然と笑顔が溢れるような時間を過ごすことができました。

2階フロアはハロウィンパーティーをイメージした、ジャックオランタン風に仕上がりました。各ユニットで作ったランタンは当日には出揃い、それぞれの個性を光らせながら作品展を明るく盛り上げてくれていたと思います。今後も利用者の皆さんとかけがえのない時間を過ごせるよう、スタッフ一同、支援していきます。

植松 瞳(2階 生活支援員)





作品展とたくさんの笑顔

1階では利用者の皆さんとスタッフで制作した作品や動画、写真をご覧いただきました。

夏に開催したティンクルトラベルにちなんだシーサーの絵柄の色付けや花火を描いたうちわ、大木を描いて利用者さんお一人お一人の顔写真をお花に見立てた作品や、パンパスの穂を染めた作品などを展示しました。どちらのユニットのご家族の皆様も待ちかねたご様子で交流ホールに入られ、お顔を近づけてご覧になられたり、作品に手を伸ばされ作者を確認されるご様子が見受けられました。

作品をご覧になられた後は多目的室にて「思い出動 画」をご視聴いただきました。

「思い出動画」とはティンクルなごやの開設当初から現在に至るまでの利用者さんの素敵な写真をピックアップし、ユニット毎に構成した動画です。ご家族の皆様から「懐かしかった」「いい顔だったね」といったお声をいただきました。

各フロアでファッションショーを楽しまれた後、最後に「ていんくる写真展~めぐり愛・ふれ愛・わらい愛~」と題した写真展をご覧いただきました。

利用者さんとスタッフが一緒に時を過ごしている様子を写真に納めました。コロナ禍で制限の多い面会をお願いしている中で、利用者の皆さんとスタッフの関わりが少しでも伝わればという思いで企画しました。ご覧になられているご家族の皆様から笑顔や楽しそうに会話をされている様子が見られ、施設内は賑やかで温かい空気に包まれたひと時になりました。

スタッフにとっても、たくさんの笑顔に癒され励まされた貴重な時間になりました。ありがとうございました。 畑木 千夏 (事務職員)











当日のお土産になったポプリセットです。地元の「クオリティライフ 21城北ふらっとはんど」の皆さんが収穫されたラベンダーで、交流ホール内も良い香りが漂っていました。

その人らしい生活を支える支援

障害者の意思決定支援と成年後見制度

今年度の支援者向け研修は「その人らしい生 活を支える支援~障害者の意思決定支援と成年 後見制度~」というテーマで、大津裕昭様(名古 屋市成年後見あんしんセンター副所長)、西口伸 樹様(愛知県青い鳥医療療育センター療育支援課 長)、梶田勝彦様(市民後見人)の3名の講師を施 設にお招きし、お話をお聞きすることができまし た。この研修の内容は録画・編集後、当日聞くこ とのできなかったスタッフやお申込みいただいた 県内の関係施設の皆様に、YouTubeの限定公開 にて配信をさせていただきました。

当施設では、ご本人様はもちろん、家族背景、 課題や希望も異なる方が一緒に生活をされてい ます。個々に寄り添い、重症心身障害児者の意思 決定や人権をどのように考えていけるのか、ご家 族の思いを引き継いで、その人らしい生活を送っ ていただくために、私達にできることにはどんな ことがあるのだろうかという視点での研修を企 画しました。

大津様には、権利擁護や意思決定のプロセス、 市民後見人の制度についてお話しいただきまし た。また、共通の利用者さんの事例を通して、西 口様には直接的なケアをされた施設側の意思決 定への取り組みや思いを、梶田様には市民後見 人として8年間関わられた経験を通しての思い等 をお話しいただきました。

今回の研修は、利用者さんの意思決定につい て改めて考える機会になりました。ティンクルな ごやで長く生活される利用者さんも多く、様々な 選択の場に立ち会うことがあります。その人に とってのより良い意思決定を支援するということ は、ご本人様はもちろん、ご家族や周りで一緒に 支える人と日頃のコミュニケーションや繋がりが あってこそであることを、改めて感じました。今 後も自分たちの関りを振り返りながら、より良い 関係づくり、支援を提供できればと思います。

栗田 花央(相談員)





■公共交通機関でお越しの方

○栄より/市バス栄11系統「西部医療センター」又は「志賀公園前」下車 ○名古屋駅より/市バス名駅13系統「又穂住宅東」

/市バス名駅15系統「城見通二丁目」または「西部医療センター」下車

■お車でお越しの方 「黒川」出口から約10分です。



名古屋市北区平手町1丁目1番地の5 TEL: 052-916-0333

ホームページでも、日々の生活の様子や職員メッセージを配信しています。ぜひご覧ください。

https://twinkle-nagova.com

